

「史跡小牧山主郭地区第2工区整備工事」について

〈小牧山山頂（主郭）及び大手道沿いの石垣復元を含む史跡整備工事の概要〉

史跡小牧山の山頂部を中心とする主郭展示エリア（図1）の整備については、『史跡小牧山保存活用計画』・『史跡小牧山整備基本計画』・『史跡小牧山主郭地区整備基本計画』に基づいて発掘調査を行い、その成果を基に整備工事を行っています。



図1 史跡小牧山整備ゾーニング計画図

山頂部主郭の整備は、令和3年度から整備工事を開始し、このたび、3年目となる令和5年度に施工した第2工区の整備工事が竣工しました。

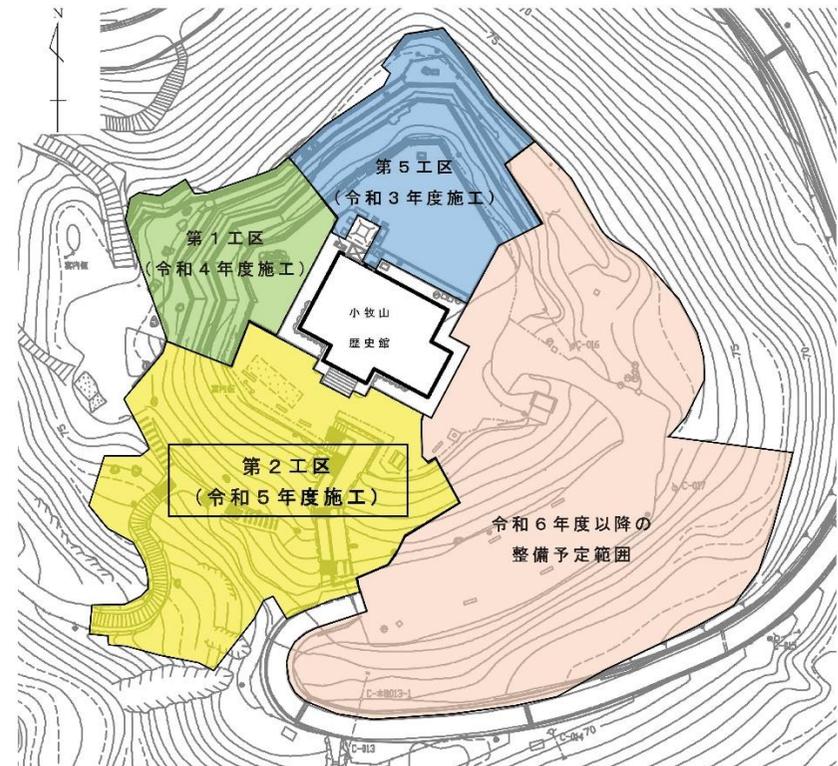


図2 整備工事位置図

第 2 工区 の 整備

第2工区は、小牧山城の主郭（山頂）の南部にあたり、主郭へつながる大手道を含んだ範囲です。整備では、織田信長築城時の主郭をめぐる2段の石垣（上段・1段目を「石垣Ⅰ」、下段・2段目を「石垣Ⅱ」と呼称）、大手道沿いの石垣、大手道の一部で確認した玉石敷、小牧・長久手の合戦時に築かれた土塁などを復元しました。

石垣は、過去2年間の整備と同様、発掘調査で確認したオリジナルの築石（石垣に積んである石）に、新たに購入した石をオリジナルの石垣と同じく野面積みという積み方で積んで復元整備しました。

大手道沿いには、小牧山本来の岩盤を加工して切り立て、その上に石垣を積んだ部分があります。その部分の整備では、築城当時の岩盤面を露出させて、石垣を復元しています。

※ 復元した石垣の延長距離・平均高さ（調査による推定高）

石垣Ⅰ：72.0m・2.0m（2.5～3m） / 石垣Ⅱ：7.0m・1.2m（2m） / 大手道沿いの石垣：54.1m、1.2m（2m）



石垣Ⅰ（上段）と
石垣Ⅱ（下段）

（写真）

上：整備後
下：調査時



同記号の
石が同じ
石です。

大手道沿いの
岩盤と石垣

（写真）

上：整備後
下：調査時



玉石敷

（写真）

上：整備後
下：調査時



大手道の経路

本来の大手道の経路は、石垣に沿う経路（赤色矢印）と考えられますが、転落石（石垣Ⅰから崩れ落ちた石）をこの場所に残したため、園路を迂回させています。

土塁

小牧・長久手の合戦時に築かれた土塁を復元しています。（ササを植栽している部分）

玉石敷

発掘調査で、大手道の山側法面際に確認された玉石敷を復元しました。道への雨水流出を軽減するために設置していたと考えられます。石は主郭地区の調査で出土した石を使用しています。

玉砂利敷

石垣Ⅰの前面に発掘調査で確認された玉砂利敷を、新たに購入した砂利を用いて復元しました。石垣Ⅰの前面が通路として利用されていた可能性があります。

花崗岩の巨石

南側の石の上にあった銅像移設（R4年度）後、銅像を建てるために搬入された土を取り除きました。この石は、小牧山の北側約3kmにある岩崎山から搬入したと考えられ、主郭への入口にあたるこの場所に置かれました。

主郭への経路

整備前は左（西）に折れて山頂へ上っていましたが、発掘調査で、石垣の残存状況から、右（東）に折れて山頂へ上る経路であったことを確認したので、調査結果に基づく経路に復元しました。

石垣Ⅰ背面の一部に、令和5年度の「裏込め石記名イベント」参加者がメッセージなどを記した石を裏込め石として充填しました。



図3 第2工区平面図

切り立てられた岩盤

岩盤面は築城当時のものです。最も高い北東角部分の岩盤の高さは3.2mで、その上の石垣は約2mの高さがあったと推定しています。整備では、岩盤手前の園路部分を約30cm埋めています。復元した石垣の高さは約1.2mです。

観察デッキ（木階段）両側の植栽（コクチナシ）は、推定される大手道の位置を示しています。